資料８

まちまるごと、みちのえき

加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム事務局より

令和８年度の取組予定について

令和８年３月24日
加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム
令和７年度第２回ボードミーティング（全体会）資料

1. 令和７年度にピックアップした４つの取組について

- 引き続き【情報発信】【担い手育成】につながる以下の取組を実施予定

【短期重点分野（１）情報発信】

１）加茂のまちなかコンシェルジュ（主体：商店街有志＋観光協会）➡ 継続・連携拡大

- 11月から商店街有志により運用を開始。今後は協力店舗の拡大に向けた認知度向上が期待されます。

２）まちやお店の情報発信（主体：観光協会＋エリプラ事務局）➡ 継続・連携拡大

- 加茂市クリエイター塾を初開催。参加者から大変好評だったため、令和８年度も継続予定です。
- 観光協会が穀町地内（現BBC）に移転することから、まちなかの店舗との連携拡大が期待されます。

【短期重点分野（２）担い手育成】

３）まち・みず・みどりを巡るツアー企画とガイド養成（主体：観光協会）➡ 継続・連携拡大

- 商店街、加茂川、加茂山をフィールドとしたツアーを企画・実施。ツアー参加者が加茂のまちなかの情報をSNSや口コミで発信・拡散することも期待されます。

４）商店街への新規出店者支援（主体：加茂商工会議所＋加茂市）➡ 新たな実証実験を予定

- 令和７年度は創業支援と併せて、空き店舗所有者と空き店舗の活用希望者とのマッチングを行いました。

2. 令和８年度新規事業について

- 新たに【情報発信】【担い手育成】につながる以下の取組を実施予定

① リノベーションまちづくりの推進（NEW）

➡ P.5へ

＜目的＞　今後のまちなか再生のカギとなる民間プレイヤーの発掘及び活躍を促進するため

- 民間が主導する公民連携まちづくりの知見と支援実績を数多く有する【㈱リノベリング】の伴走支援を受けながら、市内で活躍する民間プレイヤーにスポットライトを当てる【KAMO NEXT TALK】と、リノベーションスクール開催に向けた【事前講演会】を開催予定。

② 空き店舗の活用に向けた実証実験（NEW）

➡ P.7へ

＜目的＞ まちの“潜在力”を可視化することで民間プレイヤーのチャレンジを後押しするため

- 地方の小規模都市における地域の暮らしを支える持続的な出店環境の構築を目指して、加茂駅周辺まちなかエリアを中心とした実証実験を行い、空き店舗や空き家の調査解析による可視化、地域と連携した挑戦（トライアル）機会の創出とそれらに伴う効果検証を実施予定。

③ エリプラホームページの開設による情報発信の強化（NEW）

➡ P.12へ

＜目的＞ まちなかエリアの情報を分かりやすく発信することでプレイヤーの取組を支援するため

- これまでは市のホームページに会議の内容を掲載するのみだったが、エリプラ独自のホームページを開設し、民間事業者の取組をどんどん発信していく予定。サイトは４月の公開に向けて準備中。

2. 令和８年度新規事業について

① リノベーションまちづくりの推進

- リノベーションまちづくりの考え方に基づいて「産学官金連携のまちづくり」の機運を高めていくため、リノベーションまちづくり会議「KAMO NEXT TALK」の継続的な開催や、他地域の民間プレイヤーとの交流によるモチベーション・インスピレーションの向上を図りたい

令和８年度は、まちの最大のコンテンツである【人】にフォーカス
加茂を民間プレイヤーにとってチャレンジしたいと思える場所へ

市の「空洞化」が進行
・空家、空き店舗、未利用地が増大する

「小さく早い」民間事業
加茂の既存の資源や魅力を活かし、高めることで「加茂ならでは」の魅力が増える

「負の遺産」の増大
・公共施設の老朽化や遊休不動産により行政負担が増大する

負の遺産が「資産」へ
・遊休動産を民間活用することで新たな経済活動の拠点へ

「人」や「機会」の市外流出
・若い人やクリエイティブな人が機会を求めて市外へ流出する

「人」と「機会」の創出と定着
・地域課題に自ら取り組む「人」が育つ
・人と機会に惹かれて市外から人が訪れる

2. 令和８年度新規事業について

① リノベーションまちづくりの推進

- 加茂市内の民間プレイヤーにスポットを当てたリノベーションまちづくり会議「KAMO NEXT TALK」を、夏と秋にそれぞれ１回ずつ、合計２回開催したい
  - ➢ それにより加茂市内で活躍する方、加茂市に興味を持ってくれる方との接点を増やすとともに、リノベーションまちづくりの考え方を共有しながら「やってみたい」「やってみよう」と思える場を継続的に提供することで、令和９年度のリノベーションスクール開催に向けた機運の醸成を図ります

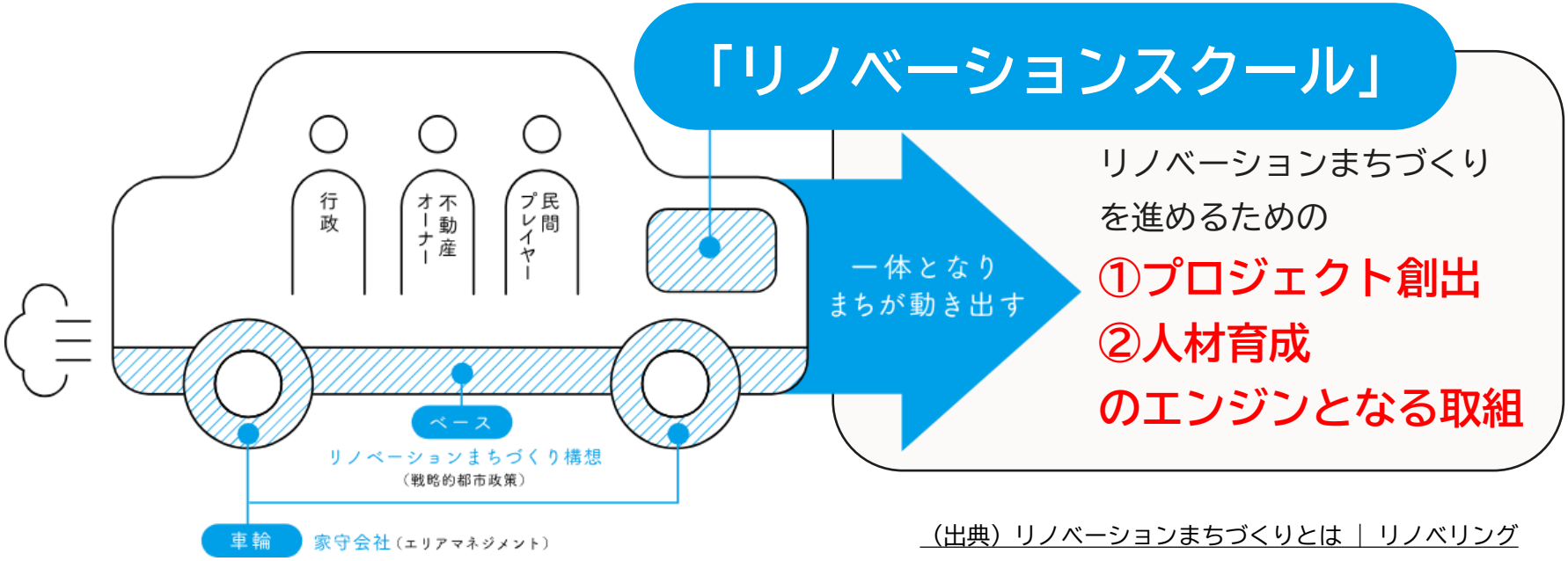
- リノベーションまちづくりに対する理解を高めるための事前講演会を来年の冬から春にかけて開催したい
  - ➢ リノベーションまちづくりに取り組むことで、自らのまちを変えることに成功した民間プレイヤーによる講演と、講師と参加者との対話を通じてモチベーションやインスピレーションを高め、令和９年度のリノベーションスクールの円滑な開催につなげていきます

（出典）「リノベーションまちづくり@新潟市」公式インスタグラム

2. 令和８年度新規事業について

① リノベーションまちづくりの推進

R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
● にいがたリノベまちづくりスクールの受講 ● KAMO NEXT TALKの初開催	① 加茂市内の民間プレイヤーにスポットを当てたリノベーションまちづくり会議「KAMO NEXT TALK」を開催（２回） ② 地域の課題を解決するためのヒント、 実践していく上での心構えなどリノベーションまちづくりに対する理解、機運を高めるための事前講演会を開催（１回）	● 事前講演会（１回） ● 第１回加茂市リノベーションスクール開催（２ユニット） ● KAMO NEXT TALK開催 ➢ スクールから創業・新規出店者が発生	● 事前講演会（２回） ● 第２回加茂市リノベーションスクール開催（２ユニット） ● KAMO NEXT TALK開催 ➢ 創業・新規出店者の連鎖が発生



（出典）リノベーションまちづくりとは ｜ リノベリング

2. 令和８年度新規事業について

② 空き店舗の活用に向けた実証実験

解決に取り組む社会課題・実現したい未来（理想の状態）

- 社会課題：人口減少に伴う小規模商店街の空洞化、若手起業家や地元出店者の機会不足、日常生活圏の縮小
- 実現したい未来：小規模でも持続可能な出店循環をつくり、地元の暮らしを支える良好な商業環境の構築

実証事業者の概要

- システム開発：個人店クリエイター等の出店者向け地図BIツール「Placebook」の企画・運営
- 地域伴走支援：商店街や市街地における出店者や地域団体への伴走サポート
- コンサルティング：自治体・ディベロッパー等に対する都市開発の調査・企画・事業戦略立案

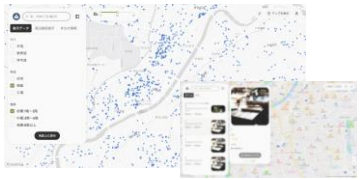
プロジェクト概要・プロジェクトを通して実証したいこと

中心市街地や空き家を舞台に、多様な人々が関わり合い、小規模都市ならではの挑戦が循環する仕組みを検討。調査解析をベースに、地域イベントを通じた空間活用モデルを検証する。

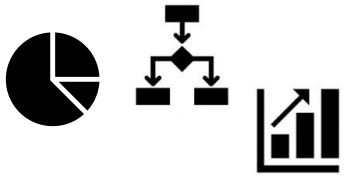
1. マッピング・解析

2. ヒアリング・ワークショップ

3. イベント企画と連動したトライアル出店



4. 効果検証・モデル検討



実証実験のステップ

1. 地元マッピング・解析
2. ヒアリング・WS
3. イベント企画と連動したトライアル出店
4. 効果検証，モデル検討

次の展開に向けて議論

実証事業者

URBANIX
URBAN DESIGN & STRATEGIES

協定を締結して業務を委託
（時期は調整中）

関連するSDGsゴール

事業費（寄付金額・主な活用方法）

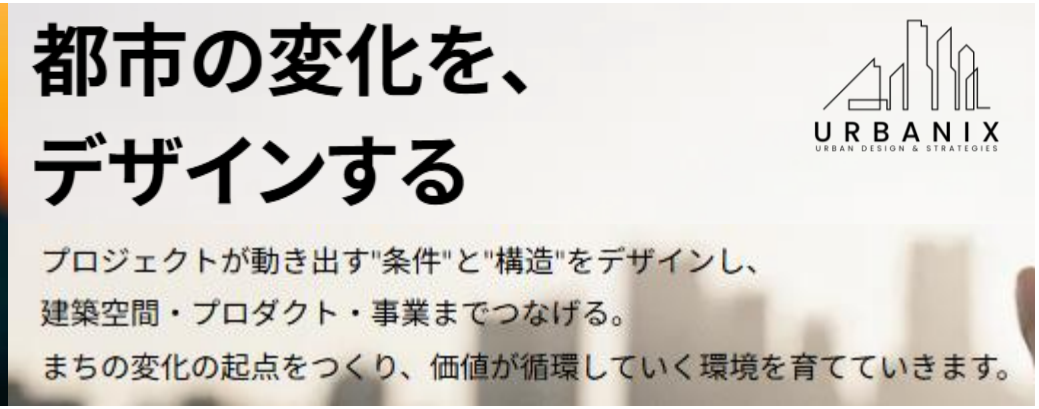
- 事業費（寄付金額） 1,100,000円
- 主な活用方法（案）
  - 店舗・空き家のプロット調査
  - 小規模都市におけるエリア戦略の検討
  - 周辺大都市におけるニーズ検討と、地元事業者向けワークショップ開催
  - Placebookを用いた地域連携イベント
  - Placebookを用いた短期間の試験出店・地域連携イベント実施

プロジェクト後の展望

- 小規模都市における出店循環活用の効果、地元事業者の挑戦機会の拡大、都市圏からの交流人口増加などの成果を検証し、その結果を持って小規模自治体型モデルをつくる

2. 令和８年度新規事業について

② 空き店舗の活用に向けた実証実験



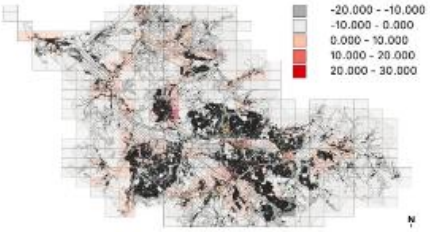
岩淵丈和
Tomokazu IWABUCHI
CEO, Founder
1996年福岡生まれ。九州大学大学院都市設計研究室博士課程在籍。次世代研究者挑戦的研究プログラム採択。URBANIX株式会社代表取締役。研究では、都市部における小規模店舗の増加メカニズムを研究。過去には、スマートシティPJや国際連携、実証実験支援等の業務を多岐に渡り従事。

（出典）Iwabuchi-Urbanix

主なプロジェクト一覧

URBANIXは、都市・エリア・不動産・データ・制度・人の営みを横断しながら、人の可能性がひらかれる環境づくり に取り組んでいます。

（出典）URBANIX株式会社 | Urbanix Co., Ltd.



観光エリアのデータ解析

都市データやリサーチ結果をもとに、エリアの特性や変化の兆しを可視化。意思決定を支える分析・レポート化を支援。

商業エリアのデータ解析

地図をベースとした、簡易調査ツールを開発・運用しています。調査後は、解析の実施、レポートの作成まで支援。

未活用不動産の再編集

空き物件や既存ストックを対象に、エリア特性と使い手の意志を踏まえた活用コンセプトの設計・事業化を支援。

公共空間・公園活用の企画支援

公園や広場などの公共空間を対象に、人の滞在や行動、緑被率等に着目した活用構想等を支援。Park-PFI参画経験あり。

2. 令和８年度新規事業について

② 空き店舗の活用に向けた実証実験

新潟県加茂市

令和8年度（2026年度）実施計画案

デジタル活用による公共空間・遊休不動産の利活用実証プロジェクト

～「Placebook」で創る、加茂市の持続可能な賑わいの創出～

担当 URBANIX株式会社 岩淵

2. 令和８年度新規事業について

② 空き店舗の活用に向けた実証実験

2. 令和８年度新規事業について

② 空き店舗の活用に向けた実証実験

2. 令和８年度新規事業について

③ エリプラホームページの開設による情報発信の強化

- ４月の公開を目指して準備中
- まちなかエリアの民間プレイヤーの取組を中心に掲載していく予定